

【ものづくり、人づくり、地域づくり】 震災・原発事故から1年

5/9 県央・県南の女性たちが今つながる 「脱原発 つながろう 立ち上がろう いばらきの女たち」交流会 in東海村

県南+東海村+ひたちなか市+水戸市+日立市+柏市ほか 総勢70名が交流



交流会の様子や感想は追って報告いたします。

○「東海第2原発運転差し止め 住民訴訟」7月末提訴 5/27(日)「提訴前 茨城集会」(水戸)へ (別紙案内)

統一原告団は180名を超えました。生協を代表して50名の組合員・生産者が原告団に参加しています。原告団事務局を常総生協が担います。集会へは生協上げて参加したいと思います。バスで参加しますので、ぜひごいっしょしましょう！(裏面に申込書)

○6/9(土)常総生協第39回通常総代会

つくば国際会議場 9:30～12:00 PM～生産者と交流会

午後から「震災からの復興と、放射能汚染からの再生を共に！」生産者消費者交流会を予定しています。詳細は次週ご案内。

【特集:地域で行動し、発信する常総組合員②】 守谷平和の会 東海第2原発廃炉の陳情採択

自分たちのことより、子供や孫たちのことが心配でなりません

常総生協からの情報は、市民のこころを動かす力をもっている

私は、「守谷平和の会」の中で、常総生協から得た情報を伝えて、学習を積み重ねていきたいと、役員として頑張っています。

私が「平和の会」に出会ったのは、3年前に守谷に引っ越して来て初めての8月に市役所ロビーで展示されていた「原爆パネル展」を偶然見たことがきっかけで入会させて頂きました。

平和の会のみんなにとっても、昨年3.11の東日本大震災と原発事故や放射能の汚染は本当にショックでした。学習会も行い、初めて聞く話に勉強不足を感じながらも、自分たちでできることは何かを考え、12月議会に「東海第2原発の再稼働の中止と廃炉を求める意見書を関係機関に出す」という陳情を守谷市議会に提出しました。

しかし、市議会改選前の最後の議会で、残念ながら継続審議にされ、事実上廃案になりました。

会のみんなで議論して、選挙後初めての3月市議会へ、再度陳情をしました。新しい議員も加わった市議会では、選挙で放射能問題も争点になったことや、市民の関心もはっきりしてきたのか、委員会でも本会議でも活発な議論がなされ、3/23の本会議で全員一致で「関係機関に意見書を上げる」ことに賛同を得られました。

採択された陳情の内容は、

- ①茨城県と国は、県民の合意がない中での東海第2原子力発電所の再稼働を認めないこと
- ②国と事業者は、34年も経過し老朽化している東海第2発電所を廃炉にすること。
- ③原子力にかわる代替エネルギーの確保を早急に求めること。

以上のことを、地方自治法第99条の規定により市議会として関係機関に意見書を提出して頂きたい。

というものです。

私たちの守谷平和の会では、初めての市議会への陳情で、果たしてどのようなのか注視しておりましたが、常総生協をはじめとした放射線測定の実行などが市民の関心を広げ、議会にも一定の影響を与えたのではないかと思います。

平和の会は、平和に関係することにずっと昔から取り組んできたと聞いています。会員は高齢化していますが、自分たちのことより、子供や孫たちのことが心配でなりません。

常総生協からの情報は、市民のこころを動かす力を持っています。

これからは、給食の材料や、家庭の食べ物などにも関心を広げていこうと考えているところです。

【5/8 茨城県原子力安全対策課との話し合いに参加】 脱原発ネットワーク茨城 代表 小張佐恵子さんより

今日は県庁に行って、県原子力安全対策課への申し入れに参加してきました。

この申し入れは、東海第2原発廃炉を求める署名共同行動実行委員会が、茨城県の「茨城県原子力安全対策委員会」のあり方に関してあらかじめ7項目の質問を出しており、その回答を求めたものです。

委員会は3.11以降、数回専門家会議を行っていて、ここが東海第2の再稼働の是非を決めるカギを握っているのです。しかし、事故から1年以上過ぎているのに「国

の判断が出てからの後、半年かけて防災について考える」という悠長さ！

100ミリシーベルトに凝り固まった判断基準を持ち出してこられるや失笑と義憤の声が思わず持ち上がって、皆我慢し切れなかったのです。1時間という約束が30分超過しても、まだまだ言いたいことが言い切れない状況でしたが、やむ終えず切り上げるしかなくて解散となりました。

この時間をやり過ごせば良いのだーといわんばかりの対応に腹を立てながら帰路に着きました。(5月8日)

●5/27(日)午後1時水戸会場着「東海第2原発運転差し止め住民訴訟 提訴前 いばらき決起集会」参加申込み

参加人数地域に応じて、マイクロバス及びレンタカーの乗車時間・集合場所を決めさせて頂き、連絡いたします。

5/27(日)「東海第2原発運転差し止め住民訴訟 提訴前 いばらき決起集会」に参加します

コース名 _____ 氏名 _____ 住所 _____

(連絡先) tel _____ mail: _____ (携帯・PC)

【特集：地域で行動し、発信する常総組合員②】 4/1福島原発事故から一年 パネルディスカッション(2)

ただただ必死で、とにかく子どもたちを守りたい！その一心で・・・

○泉さんからの報告

つくばで行われた「パネルディスカッション」にパネラーとして声をかけていただき、はじめは、私がパネラーなどつとまるかな？との思いもありましたが、こういう機会もなかなかないし、臆せずやってみようと思いました。

お母さんがパネラー！は、初めて

今までも、パネルディスカッションなるものはありましたが、お母さんがパネラー！は、初めて聞きました。でもよくよく考えてみたら、主役はお母さんじゃなくっちゃ！とも(笑)。

私は、自分が阿見町で「放射能から子どもを守る◎阿見」の会を立ち上げた時の思いを中心に話をしました。

なかなか自分では、今の生活に追われて、振り返ることなどしないけれど、話をしながら1年前を振り返ることができ、感慨深いものがありました。

当時を考えると、ただただ必死で、とにかく子どもたちを守りたい！その一心で、手探り状態で一年間頑張ってきました。

具体的に進むことは、本当に小さなことで、少しずつ少しずつ、なのですが、この一年間で、仲間から大事なものをいっぱい学ばせてもらいながらきて・・・いえ、ずっと前から、色んな事を学ばせてもらってきました。

前向きな姿勢を教えてくれた、大石さん。

一人一人、人を見ることを教えてくれた、小川さん。

人との繋がり良さを教えてくれた、村井さん。

心の温かさを教えてくれた、加藤さん。

世の中に目を向けることを教えてくれた、小島さん。

周りの人達を考えることを教えてくれた、稲垣さん。

正義を教えてくれた、都留さん。

本当に皆、すごいなー！すごい人たちだな！って思います。

実は事故後、「まだ、まにあうのなら」(甘蔗 珠恵子/地湧社)を図書館で見つけました。



25年前も、こうして声をあげてくれた大人がいたんだ！と嬉しいような、でも、こうして再び起こってしまったことに、複雑な思いがあったのですが、後で知ったことは、その本、どなたかが図書館に寄付したのだそうです。

見えないところにいる・・・すごいですね。

パネラーに誘ってくださった、たんぽぽ会の鈴木さんも、チェルノブイリの時から勉強をはじめ、今もこうして頑張ってくださいていることを知り、パネラーを見ても、周りを見ても、これだけの人たちがいる、こんなにすごい大人たちがいる！

頑張れそう、頑張らなくちゃ！と勇気づけられました。

ただ各々の思いの中、共に前に向かいながらも、悔しい思いを抱えて、今なお頑張っている。

決して、収束なんてしていない！

私たちの代で終わりにしなければ、子どもたちにこれ以上、負の遺産を残すわけにはいかないと、心新たにしたのでした。

ディスカッション後にも、色々なお母さん方、パネラーの方々ともお話ができ、ここから繋がった方もいることに、このような機会を頂いて、本当に感謝しています。

歩みの遅い私ですが、これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

阿見町 泉弥生

【特集：地域で行動し、発信する常総組合員②】 2/27「茨城県放射線アドバイザーとの意見交換会」

「赤ちゃんからお年寄りまでひっくるめてみ～んな大丈夫！」でも、我が子には「今日は外に出ないように」と。これが県のアドバイザー。

2月、同じつくば市春日交流センターにて開催された茨城県派遣の「県放射線アドバイザーとの意見交換会」。

元々この企画は県側から打診があったらしい。

昨年3月の原発事故後まもなくから現在まで、全県に渡って繰り返されてきた、「放射能なんてぜーんぜん大丈夫～！」的な講演会行脚の甲斐も無く、県民、特にお母さんたちの不安が解消されていない様子を受けて、次の策を打ってきたのだろう。

しかも、このつくばでの開催は輝かしい第一回目。

そのせいか、県側は総勢9名の大連隊。あまりの大きさに、冒頭つくば側の主催者に “高い時給なのにこんなにたくさんおいでいただいて～”と、軽いジャブをかまされていた。

そして真打ち登場！【いばらきの山下俊一】と噂されている、田内広氏。



茨城大学理学部教授でありながら、昨年の福島第一原発の事故後すぐに茨城県内の中学、高校を中心に勢力的に講演して回っていた。

この日も、いつもならタツプリ2時間コースの独演会を、主催者側の希望によりたった15分しか与えられず、いぶかっていた。話し始めると時間の短いこともあってか、機械のようによどみなくしゃべるしゃべる！

でもやっぱり内容は、これくらいの放射線なんてぜーんぜん問題ない！！むしろ無用な心配でストレス溜める方がよっぽど細胞を傷つけてる！と。

こちらに考えるスキを与えないほど、大丈夫！大丈夫！という話をシャワーのように浴び続けると、本当に大丈夫なのか？(^_^； と、不覚にも頭をよぎってしまった。

続いて質疑応答と意見交換。

こちら側の主旨はあくまでも【健康調査の実施】の要求だったので、科学的な話をどこまで持ち出すか？悩むところではあったが、話がブレていかにように参加者が気を配り、出来るだけ県側の話を聞き出そうとしていた。

そんな中でも、群馬県の医師が群馬県内の成人の甲状腺機能が低下傾向にあると、日本甲状腺学会で発表した話や、チェルノブイリでの健康障害の話、東京の成人からウランが検出された話など、この国の子どもたちの命を守ろう！と、一生懸命調べている、学者などではないごく一般の県民の話にも、のれんに腕押しといった感じだった。



最前列に陣取り、3～4月の母乳や野菜や土壌の生協の放射能汚染調査データを講師に突きつけて説明する小島さんら組合員。

県民が確実に被ばくしている。明らかに異常事態なのに、危機感が全く感じられなかった。この期に及んでも相変わらず国からの指示がないからとか、前例がないからとか、健康調査と被ばく調査は違うからとか・・・云々

その、前例に無いことが起きているんだよ！！！
今までの慣例にとらわれずに何でもやってみればいいのに！と思った。だってこれは、世界的にもなかなか例のない事態になっているのだから、この事故に対処する慣例や常識は自分たちがこの地、茨城から作っていく！くらいの気構えを持ってほしい！！

首尾一貫して、‘赤ちゃんからお年寄りまでひっくるめて大丈夫～’の完全武装の田内広氏。

一ミリのスキもないと思いきや、何度か人間らしいところを見せていた。水戸在住の彼は、高い放射線が観測された3月15日、小学生の自分の息子には“今日は外に出ないように”と言ったらし



「僕もガラスバッチつけてます。大丈夫！」と見せつける田内放射線アドバイザー。

い。なぜそれを、国や県に進言してくださらなかったか！
もうひとつは我が常総生協が放った刺客、大石副理事の入魂の一撃。“セシウムで汚染されていた自分の母乳を飲ませてしまったお母さんの赤ちゃんへの心配と不安に、もう少し寄り添ってほしい！”“感受性が違うのに、大人も子供も1ミリシーベルト以内だから大丈夫と？何でも平均化で片付けるな！”と一喝。これにはあちら側は一気にトーンダウンして歯切れが悪かった。

明らかに墓穴を掘った企画。 私たちの不安を解消するどころか不信がますます募ったのではないか。

しかしピープルズパワーを強く感じる事が出来た。私たちがもっと手を繋いで立ち向かって行けば、状況を打破出来る糸口をつかんだ気がした。